

第54回造本装幀コンクール 受賞者インタビュー

東京都知事賞：『forward』

装幀家

久能真理 氏



©佐藤祐介

●御社の活動について教えてください。

グラフィックデザインを中心に、ロゴやサイン、パッケージデザイン、ブックデザイン、プロダクトや商品の企画など、様々なプロジェクトを手掛けています。

●今回の作品のような造本にされたのは、どのような経緯があったのでしょうか。

『forward』は、photographer今城純さんが5年の歳月をかけてフランス各地のメリーゴーランドを撮り溜めた写真集です。

装幀のポイントであるドイツ装の小口四面全てに施された天金加工は、メリーゴーランドの装飾や色の印象を写真集に象徴的に落とし込みたくて実現させました。



四面すべてに施された天金加工

普段写真集を買わないような人でも飾っておきたいような雑貨のような魅力を持った本を目指し、判型は気軽に手に取れるような小さめのサイズに。写真集には珍しく上から蓋をかぶせるタイプの箱に収めました。箱はフランス国旗をイメージした3色展開になっています。

●応募したきっかけや、受賞の知らせの感想、周囲の反応など、いかがでしたでしょうか。

『造本装幀コンクール』を知ってから機会があれば是非応募したいと思っていました。東京都知事賞の受賞のお知らせをいただいた際には予想し

ていなかったのが驚きましたね。

著者の今城さんをはじめ、印刷加工を担っていただいた各印刷・製本会社さん、奔走して下さった印刷会社の担当者さん、関係者全員が喜んで下さったことが何よりも嬉しかったです。

●作品制作において、こだわった点、苦労した点、そのほか制作についてのエピソードがあれば教えてください。

前例がないことは、作ってみて初めて直面する問題というのがどうしても出てくるものです。小口に施した天金加工は、東見本を作っただけから箱がポロポロ剥がれるという問題が発生、材料変更を余儀なくされました。

箱は当初技術的に薄い箱を作ることが難しく、箱の中に空間が出来てしまうことが分かって別の作り方で試作検討をしていましたが、そちらも問題続きで最後の最後までどうなるか分からない状態でした。最終的に現在の箱屋さんが見つかり全て解決することが出来ましたが、そうでなければきれいな箱に収まった写真集を見ることは出来なかったかもしれません。



フランス国旗をイメージした三色の函

●一般の方は「造本」という言葉になじみがないかもしれませんが、「造本」の観点から、本を視る」ポイントがあったら教えてください。

紙が薄くてものすごく大きな判型の海外冊子、表紙

にちょっと変わった加工がしてある本、比率やサイズが珍しい本、変わった素材を使っている本…特に目的を設けず、書店内の様々なジャンルを縦横無尽に歩き回ってみて、表紙が気になったものを手にとってみるというのも楽しい経験になるかもしれません。

紙の手触り、重み、本の大きさ、製本の仕方、紙や印刷のにおい、カバーを外したその下のデザインは…？実際の本を手にとることで感じる情報の出来量は紙の書籍ならではの魅力だと思います。本文の文字を追いかけるだけでなく、それを包んでいる本の外側にも是非目を向けてみてください。(了)



※インタビュー動画はこちらからご覧いただけます。